

Study on Development of the Katsuo Processing Industry
in the Globalization Era
(グローバル化時代のカツオ節製造業の展開に関する研究)

長崎大学大学院生産科学研究科
ウィリー・リストン・マンチョロ

本研究は5章で構成される。

第1章 研究の背景、目的、方法

本研究の目的は、日本式のカツオ節製造業の経済現況を的確に解明することである。具体的な検討は原料のカツオと一次産品であるカツオ節の生産と貿易、カツオ節製造業の経営、製造技術、カツオ節の市場と流通、一次加工と二次加工の関係、産地間および経営体間の競争、二次加工品の生産と市場に及ぶ。

調査地は日本とインドネシアで、日本は鹿児島県（枕崎市、指宿市山川町）と静岡県（焼津市）、インドネシアは北スラウェシのビトン市とアムラン市をカツオ節製造の中心地として選定した。二次加工については、その集積地である愛媛県と東京都を選定した。カツオ節製造業者、二次加工業者、業界団体、地方政府、漁業協同組合などで聞き取り調査と資料収集を行った。

第2章 カツオ節製造業におけるグローバル化の進展

カツオ節製造業は、1990年代半ばからグローバル化の時代に入った。その特徴は、まき網による原料カツオの大量供給、製造期間が短い荒節の大量生産、カツオおよびカツオ節の輸入、中国人労働力の雇用、である。輸入ものは全体の2割を占めるまでになった。カツオ節のほとんどが荒節で、その荒節は二次加工業者に販売され、つゆ、削り節、調味料などに製造される。

カツオ節の主な産地は枕崎市、山川町、焼津市で、それぞれ製造工場、漁船が集積し、大規模漁港が整備され、貿易港にもなっている。枕崎市と山川町が二大産地に成長し、まき網と輸入カツオの水揚げ施設が拡充している。それに対し、焼津市は一本釣りを保護するためにまき網の水揚げを制限していることもあって、カツオ節製造は減少気味であるが、一方、削り節などの二次加工が発達している。各産地は、カツオ節製造の協同組合が共同事業を行って個別経営をサポートしている。

第3章 グローバル化時代のカツオ節製造業—インドネシアでの発展—

インドネシアの北スラウェシは日本向けカツオとカツオ節の主な輸出地である。カツオ節製造業は需要の増加、円高、豊富なカツオ資源、技能労働力の存在を背景に1970年代に勃興したが、前近代的な生産要素・労働慣行があつて、浮沈を繰り返してきた。

1997年のアジア通貨危機は、カツオが輸出産業とつながっているために価格が急騰して、カツオ漁業の発達とカツオ節製造業の産業確立の追い風になった。現在、カツオ節工場は6工場になり、近代的設備を整えて荒節の大量生産体制を築いている。

カツオはタイでの缶詰加工のための冷凍輸出、現地缶詰加工に向けられ、残りはカツオ節加工に向く。カツオ節向けは魚体が小さく、価格も安い。工場はしばしば日本人バイヤーから技術や金融支援を得ている。製造法は日本とほぼ同じだが、インドネシアでは工場が薪を集める点が異なる。経営の特徴は、冷凍向け、缶詰加工と競合して原料確保と価格が不安定なこと、原料や薪を集める人を雇うために生産性が低い、経費率が非常に高く、利益率が低いことである。バイヤーは日本の二次加工業者や商社であるが、買い取り価格は日本のつゆ原料価格を基準にしている。インドネシア産は日本国内のカツオ節製造業を圧迫し、二次加工を支える形で日本の市場にビルトインしている。

第4章 カツオ節二次加工の構造転換

カツオ節の二次加工は削り節、調味料、つゆ、ふりかけ、エキスと幅広い。カツオ節の供給量は増えたが、2000年代になると横ばいになる。二次加工への流通チャンネルは固定的で、直接または流通業者を介し、価格は原料価格＋加工賃を基本とする。1970年代以降、市場を牽引してきた削り節と調味料の需要が低下し、つゆやエキス向けが伸びて、二次加工品の構成も変化している。消費者は簡便化を求めてつゆや調味料に依存するようになった。デフレ不況下で、商品は特売品として売られ、カツオ節製造と同じく二次加工においてもコスト削減が求められている。二次加工では、大手企業、准大手企業が成長し、生産・販売を主導している。つゆは鍋用に使われるなど汎用性が高まって消費が伸び、カツオまたはカツオ節のエキス製造も健康食品産業の隆盛につれて伸長している。

第5章 結論

カツオ節産業は、1990年代にグローバル化時代を迎え、一次加工、二次加工ともにさらに大きく変貌した。カツオ節産業はコスト削減と需要を満たすためにまき網原料の使用、荒節生産への特化、海外での製造、低賃金外国人の雇用、原料とカツオ節の輸入、カツオ節製造業者間の共同事業、二次加工による一次加工の系列化、家庭需要で商品が簡便化、需要が増加しているつゆとエキス生産に向けた再編が進行している。